

国際医療福祉大学 成田保健医療学部 医学検査学科

大 澤 進*

I. 本校の沿革と概要

本学は平成7年4月に栃木県の大田原市に国際医療福祉大学保健学部を開校し、平成11年には保健学専攻修士課程、平成13年には博士課程を設置しました。現在までに大田原キャンパス、小田原キャンパス、福岡キャンパス、大川キャンパス、そして平成28年、成田キャンパスに2学部5学科が開設されました。コメディカルの学科としては理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、看護学科、視機能療法学科、薬学科、放射線・情報科学科など保健医療の総合大学として約7,000名以上の学生数となり、現在に至っております。

成田キャンパスは看護学科が100名、保健医療学部には理学療法学科80名、作業療法学科と言語聴覚学科がそれぞれ40名、そして医学検査学科が80名の学生定員です。本学の医学検査学科は平成24年に大川キャンパスに初めて開校し、

成田キャンパスは2番目であり、学科としての設置は千葉県で初めてとなります。千葉県は医療従事者の育成が不十分な地域で、医学部は1校設置されていますが、保健学部はありませんでした。

平成29年4月には経済特区として成田キャンパスに医学部の設置が認められ、140名の学生定員となり、アジアを中心に20名の留学生を迎え、医学部附属病院の設置も予定されております。このように平成29年からは保健医療学部から医学部までの医系総合大学として展開する大学となります。

本学は千葉県の成田空港に近く、京成電鉄の成田空港駅から上野方面に向かって、成田駅、そして2番目の「公津の杜」駅前に設置されており、駅からは1分以内の近さであります。医学部は道路を隔てた隣接地に設置され、医学部と保健学部が非常に近いため、今後の医療チームワークでの連携教育も充実する予定であります(写真1)。



写真1 成田保健医療学部 医学検査学科 (8階)

*成田保健医療学部医学検査学科 osawas@iuhw.ac.jp

II. 本学の教育目標及び特徴

本学の3つの基本理念には「人間中心の大学」として、プロフェッショナルとしての専門的な知識や技能の修得にとどまらず、幅広くバランスの取れた医療人としての良識ある人間を育成すること。「社会に開かれた大学」としては学問を創造的に追究するとともに、地域社会と一体となり、地域の医療福祉のニーズに応え、地域社会や医療福祉に関わる各界の人々の生涯教育の拠点としても機能できる大学となること。そして大学の名称にもある「国際性を目指した大学」として国際的センスを備え、いかなる国の人々とも伸び伸びと協働できる真の国際人を育成することを掲げております。

また教育理念としては、人格形成、専門性、学際性、情報科学技術、国際性、自由な発想、新しい大学運営であります。

成田キャンパスの医学検査学科の特徴としては高度先進医療と国際医療に対応した臨床検査技師教育を目指しており、質量分析装置を用いた「医用マススペクトル学会の医用質量分析認定士や日本遺伝子分析科学同学院の遺伝子分析科学認定士の受験を目指した教育を行うと共に国際医療に対応した技師の育成を目指したカリキュラムを設定しております。

III. 医学検査学科における教育内容

これからの医療はチーム医療の重要性が増しており、他学科との「関連職種連携論」や「関連職種連携ワーク」などの特徴あるカリキュラムが準備されています。また国際性を学ぶため、語学は英語を始め、アジア地区の多くの言語も履修でき、他学科の学生とともに「海外保健福祉事情」としてアジアを中心に2週間程度の海外実習が組まれています。提携している国は韓国、中国、台湾、ベトナム、カンボジア、ミャンマー、オーストラリア、イギリス、アメリカなど9カ国、約20施設の海外連携機関などに訪れて医療職や教員との交流を行います。そして交流の発表会を実施しています。

カリキュラムには国際的に活躍できる検査技師教育を行うため、「国際臨床検査学」や「国際保健学演習」などがあります。海外での医療貢献をするにはただ検査技術を学ぶだけではなく、各国の保健事情や医療環境を良く理解し、何が本当の医療貢献として役立つことのかなど、JICAで活躍した教員による演習も行われます。また高度先進医療に対応するために「先端臨床検査学」や「臨床検査技術開発論」などのカリキュラムを通して新しい検査法の開発方法や質量分析装置の取り扱いを学ぶことで、高度先進医療を開発できる



写真2 一期生の入学と教員



写真3 体育祭と医学検査学科学生



写真4 カンボジアの Puthisastra 大学との交流

臨床検査技師の育成を目指します。

本学科は一期生を迎えて授業が開始されておりますが、二人一組の教員が10名程度の学生の相談役として、入学後の学生生活のサポートをしています。また学科別対抗の体育祭を成田市の総合体育館で行い、学科内や学科間の学生交流が行われています。さらに教員と学生との交流として学生食堂でのゲーム大会を行っています(写真2,3)。

IV. 大学の所在と地域連携

本学は成田空港から2駅目と近いことから海外からの医療関係者の来訪も多く、アジアの多くの来訪者を受け入れています。また、医学検査学科

では積極的に海外との交流を進めており、開校1年目でカンボジアの Puthisastra 大学の臨床検査専攻大学生11名と教員2名を10日間受け入れ、大田原キャンパスや附属病院見学、そして本学教員や学生との交流を実施しています(写真4)。

成田市は歴史のある地域であり、成田山新勝寺は正月には全国での有数の参拝客が訪れます。大学近くには「宗吾参道」があります。成田市の名主であった木内宗吾は1653年、佐倉藩堀田氏の重税に苦しむ農民を助けるため、四代将軍の徳川家綱への直訴を行い、その結果、訴えは聞き届けられ佐倉藩の領民は救われましたが、宗吾夫妻と男子4人も死罪となり、宗吾霊堂として祀られて

おり、大学からも近い。また江戸末期では近くの佐倉藩は西の長崎、東の佐倉と言われる程、蘭学による医学が盛んで、順天堂大学の順天堂医院の発祥の地でもあります。

成田市は医療系大学の設置に協力的であり、本学との交流も盛んで、地域住民との「公津の杜祭り」と大学祭である「成翔祭」の合同開催を実施するなど、各種ボランティア活動も積極的に取り組んでおります。また、成田キャンパス内のクラブ活動も盛んで既に21の部活やサークルが活動し、学生のコミュニケーションや地域交流にも貢献しております。

成田空港は国際空港でもあります。格安航空会社が第三ターミナルを利用していることもあり、国内の多くの空港から格安で成田に来ることができます。従いまして、日臨技の会議や学会の全国研修会の会場としても既に利用されています。成田空港から2つ目の駅ですから是非、多くの研究会や研修会で本学を利用して頂きたいと考えております。

また、医学部附属病院の横には国際会議が可能な研修会場も計画されていますので、医療関係の学会や国際学会も開催できる予定です。

V. 今後の方向性

2017年には医学部が開校し、外国人教員が赴任することや20名の留学生も入学することから真の国際医療福祉大学として体制が整うことになります。医学検査学科は医学部の教育とも関連性が高いため、学生や教員の相互交流を通して、高度先進医療と国際医療に対応した教育を目指して行きます。また、本大学は既に多くの大学附属病院を持っておりますが、3年後には成田市に大学病院(640床)が建設される予定であり、また提携をした千葉県下での基幹病院との協力を得て、臨地実習も行われます。千葉県は医療過疎県ではありますが、本学の設置により多くの医療従事者を提供し、千葉県のみならず近県の医療の向上や国際医療に貢献できる人材を教育していきます。